

F-mail

No.33

平成22年11月25日号

福井農林総合事務所だより

「環境にやさしい」を福井米イメージアップに

福井米のエコファーマー化を進めています

福井米レベルアップの次のステップ

米の消費が減少し米価が低迷する中で、産地間競争に負けないためには福井米のレベルアップが必要です。昨年から今年にかけては農家の皆様のご協力をいただいて適期田植えや1.9ミリ網目選別などを進めてきましたが、次のステップはエコファーマーです。

エコファーマーはJAS有機や特別栽培と並ぶ「環境にやさしい農業」の一つの手法で、農薬や化学肥料を減らして環境に与える影響を軽くすることがねらいです。



エコファーマーの生産物にはこのマークをつけることができます

エコファーマーには誰でもなれる

特別栽培とJAS有機は生産物を認証する制度ですが、エコファーマーは農家の皆さんがこれから化学肥料や農薬を削減して環境にやさしい農業に取り組もうという5年間の計画を認証する制度です。取り組まなければならない要件は、①土づくり、②化学農薬の2割削減、③化学肥料の2割削減の3つです。生産量や品質を低下させないことが前提なので、突発的な理由で計画外の化学農薬や化学肥料を使用しても資格を失うことはありません。

みんなで取り組むことが大きな力に

農家がエコファーマーに取り組む動きは全国的に広がっています。しかし、一つの県の稲作農家が一齐に取り組むのは全国初であり、福井米をPRする大きな力になります。

農業経営支援部ではJAと協力して、化学肥料を低減したエコ肥料の実証試験や、環境負荷の小さい農薬防除体系の検討を進めています。来年初めまでには新しいエコ生産方式を農家の皆さんに提案しご理解を得ていく予定です。

エコファーマーは5年かけて新しい生産方式に移行する制度ですが、できれば2～3年でエコ肥料等の生産方式を普及していきたいと考えています。しかし、まず最初に生産者の皆さんにエコファーマーに取り組む意思表示(申請)をしていただかなければ始まりません。来年3月までにJAを窓口として申請できるよう全県的に準備を進めていきますので、ご協力をお願いします。



有機成分を配合した一発用肥料を使ってエコファーマー生産ができます

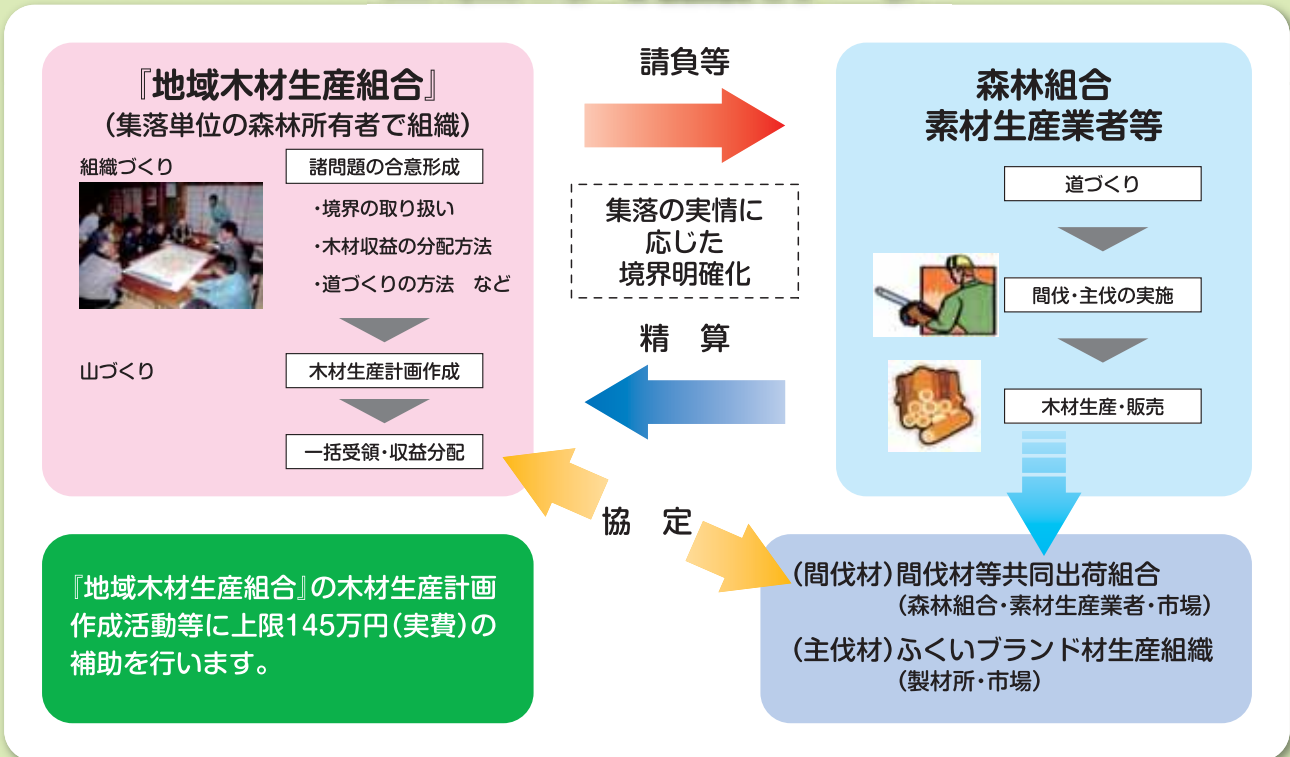
お問い合わせは 農業経営支援部 0776-21-8207

コミュニティ林業に取り組もう！

県では、**集落単位**で山林の境界や道づくりなど諸問題の合意形成をはかり、一体的な森林整備・木材生産計画を立てることで、より面的で効率的な森林整備を推進することを目指した、「コミュニティ林業」を推進しています。

集落の森林所有者で組織された「地域木材生産組合」に対し、木材生産計画をたてる為に、上限145万円(実費)の補助を行っています。

コミュニティ林業イメージ



地域木材生産組合 県内設立第1号

南西俣木材生産組合が活動を開始しています！

コミュニティ林業の中心となる地域木材生産組合の県内第1号となる「南西俣木材生産組合」が8月に設立されました。

同組合は福井市南西俣町内の森林所有者15名で構成され、町内の山を対象に森林整備と、それに伴う間伐材等の木材生産を目指して活動を行っています。

現在までに、美山町森林組合と合同で間伐材等の搬出を行うための作業道の調査と、獣害対策として山ぎわの灌木や雑草の整理を行っています。

同組合の小林組合長は「集落全体で、集落の山を守っていきたい」と話しています。

なお、作業道の開設、間伐等は美山町森林組合に委託し実施します。



小林組合長



美山町森林組合と合同で行った作業道の調査

管内トピックス

がんばってます

新規就農者

塩田 学恭(しおだ やすたか) 氏

実家は農家ではありませんでしたが、長年食品業界で働いてきて、食に関しては非常に興味を持っていました。そのうちに、自分で納得のできる農産物を生産して、販売、加工などを手掛けていきたいという思いが強くなってきました。

そこで一念発起し、農業をするという新たな夢に向かって挑戦することになりました。

就農するまでの数年間は、大野市の農家でアルバイトをしたり、あわら市の先進農家のもとで研修をさせてもらったりしながら、農業というものを1から教えていただきました。これらの経験を通じて、農業の大変さを痛感しました。水稲は機械化体系が確立されており、さほど大変だとは思わなかったのですが、施設園芸は、腰をかがめた手作業の仕事が多く、10aの仕事をこなすのに3日以上かかり、あまりにもつらくて本当に嫌になったことも一度や二度ではありませんでした。

農業はもっと楽にできるものだと思っていましたが、思った以上に大変でお金がかかるというのが実感です。特に、非農家出身で土地も持っていない者にとっては、純粋に「農業をやりたい」という気持ちだけでは、就農へのハードルは想像以上に高いものがありました。

いろいろなことがありましたが、ついに念願叶い、今年の4月から福井市中新田に土地を借り約20aのハウスを建て、大玉トマトやミディトマト等を栽培しています。当面の目標は安定して収量を確保することです。栽培初年目の今年は記録的な猛暑となり、栽培管理にも四苦八苦しました。自分の納得できるような品質にはまだまだ及びませんが、いつかは糖度の高い美味しいトマトを作りたいです。

また、近い将来、法人化することを考えています。地域の方のご厚意により、地元ではない土地で農地を借りることができました。ハウスを建てているときから、地域の方々が声をかけてくれたり、応援してくれたりしています。農業を通じて地域の人々に何らかの形(雇用の創出や農業体験の実施等)で貢献することができればと思っています。



トマトの収穫を行う塩田さん

森と里との学習会の取組について

足羽川堰堤土地改良区連合が主体となり、農業用水と水源林の関わりについて下流の農業者や地域住民の方々の理解を深めるとともに、水源林により涵養された農業用水の有効利用を促進する活動を行っています。

この活動の一環で、足羽川頭首工の受益地内にある小学校の児童を対象に、水源林体験や農業水利施設見学等の学習会を開催して、足羽の地に清流をもたらしている森林などの重要性について学んでもらうこととしています。

去る10月26日に文殊小学校・東郷小学校・一乗小学校、11月2日に清明小学校、11月10日に酒生小学校・六条小学校・上文殊小学校を対象に学習会を開催しました。

池田町の志津原高原ではノコギリを使った丸太切りを体験し、初めてのことで悪戦苦闘していました。また学校の近くを流れる水路の水がどこから流れてくるのかを見学するとともに、水質がどのように変化しているかを調べるための水質試験を行いました。子供たちは指導員の方の話を熱心に聞いて、興味深げに一生懸命取り組んでいました。

丸太切りでは誰が早く先に切れるか競い合ったり、切った木を大事そうに持ち帰ったりしていました。水質試験は場所を変えて3回行いましたが、初めは薬品によって水の色が変わるのを不思議そうに眺めていたのが、回数を重ねるごとに手際がよくなり、楽しそうに体験をしていました。



丸太切り体験



パックテストを使用した水質試験

高志地区農業活性化推進大会開催のお知らせ

福井農林総合事務所、高志農業改良振興会が主催で、福井米の品質向上と環境に配慮した農業を目指したエコファーマーの推進をテーマに講演会を開催しますので、農業者の皆さん是非ご参加ください。



- 1 日時：平成22年12月4日(土) 10:30~12:15
- 2 場所：福井市農業協同組合本店 4F中ホール
- 3 講演：「エコファーマーによる米のブランド化について」
講師：全農福島 会津宮農事務所 米穀課長 清野和浩氏

強力な助っ人！高校生等による農作業ボランティア

県では、農作業をサポートする人材を積極的に活用しながら地域農業を支える体制づくりを進める「地域農業サポート事業」を実施しています。福井農林総合事務所では、その一環として、永平寺町の地域農業サポートセンターと連携し、福井農林高校生等による農作業ボランティアを実施しました。

永平寺町上志比地区では、生産流通科3年生ら36名が上志比特産ニンニクの植付け準備(玉割り：りん片に分割する)を行い、また、一般のボランティアの方1名にも参加していただきました。

参加したボランティアは、当日は、雨天のため生産組合の農舎の中での作業となり、ニンニクの種子を準備する作業で、最初はすぐに終わると思っていたようですが、かなり大変な作業で、指先が痛くなる生徒の方もいました。作業をしながら農家の方と和気あいあいの下、農作業などについて話をしながら、「植付けの時は、また誘ってください」という生徒の方もおり、農業への理解を深め、来年も、たくさん収穫できることを願っている様子でした。

福井農林総合事務所では、今後も、こうした取組を支援していきます。



ニンニクについての説明



玉割り作業の方法



玉割り作業

エコ農産物まつりが開催されました！

10月9日(土)大和田元気祭りの中でエコ農産物まつりを開催しました。化学肥料や農薬の使用を通常栽培より削減するなど環境に配慮して生産されたエコ農産物の販売を行いました。今回、高志地区の若手農業者で組織する高志みどりクラブが、福井県特別栽培農産物認証制度の認定を受けた農産物や、エコファーマーの認定を受けた農業者が生産した農産物を販売しました。

大勢のお客さんに足を運んでいただき、農業者が農産物の栽培にあたってのこだわりや調理方法など直接話すことで、農業者の取り組みをアピールし、エコ農産物への理解を深めることが出来ました。



編集後記

時の過ぎるのは早いもので、ついこの間まで記録すくめの夏と言っていたのに、気がつくとも枯らしが吹く季節になってしまいました。

今年の米の出来は、異常な夏の暑さの影響から全国的には平年をやや下回る結果に。その中で福井米は高品質としての評価を受けています。

産地間競争が激しさを増している今、福井米PRの大きな武器となり得る「エコファーマー」にご理解とご協力を。

 **福井県**

発行：福井農林総合事務所
〒910-8555
福井市松本3丁目16-10 福井合同庁舎内
TEL 0776-21-0010(代)
E-Mail : fuku-noso@pref.fukui.lg.jp